

被災者支援住宅相談ボランティア中盤から終盤へ(再募集のお願い)

中盤は輪島市庁舎での相談受付

7日より15日までの9日間に設定されたスタートした住宅相談ボランティア活動ですが、現在は中盤から終盤に入っています。

9日から12日までは、石川県建築士事務所協会とJIAが石川県の要請を受けて輪島市を中心に活動しています。

石川県建築士会輪島支部の皆さんによる自主的ボランティアとの連携

この地域では石川県建築士会輪島支部が独自活動として被災者の住宅相談に輪島市庁舎の二階に設置して、4月3日より応じていたこともあり、石川県から依頼された輪島市商工会議所での相談はほとんど知られておらず、もっぱら市庁舎に被災度証明を要請にこられてその足で相談に見えるパターンがほとんどであったことから商工会議所会場は開店休業の形でした。

そこで、輪島支部長さんほかと協議し、会場を移して地元の活動を支援していくこととなりました。

全壊は少ないものの被災件数は多数

輪島市は門前地区に比べると全壊等の大きな被害はすくないものの、市民が多いことから一部損壊や半壊などはかなりあるようで、住宅相談は切れ目なく続き、ほとんどか現地での所見を求めるもので、地元支部メンバーが地図に相談先をプロットし一塊の相談範囲を特定し、それを二人一組の班をつくりローラー式に相談に回っていきます。

各支部・地域会から参加の方々には土地勘がないなか、地図を片手に市内は歩きで、遠隔地は車を使って相談に出向いて頂いています。

同じ地域の方によるチームもあれば、北陸支部との混合チームもあり、急場の班割ですが皆さん連携をとり精力的に取り組んで頂いています。

連日5班が延べで25軒から30軒位を回って安全性や修復の可能性などについて丁寧に説明に応じています。

相談員も被害が少ないものも多く、ほっとされる一方で基礎や躯体にまで影響がある場合は辛い判断を迫られるケースもあるようで皆さん汗をかき掻き熱心に取り組んでいます。

週末は再び門前・穴水を加えた3会場での相談窓口開設

それでも相談は切れません。出来るだけ15日までに目処をつけたいという地元輪島支部の皆さんも必死です。まさに奮闘です。

週末の14・15両日は再び輪島のほか、門前・穴水を加えて3会場での相談窓口になります。まずは皆さんにもう一頑張りをお願いしすることになります。

4月22日(日)の相談ボランティアの追加募集について

4月一杯の週末、相談窓口を開設延長することになりました。4月22日(日)はJIAが主に担当します。一日ですがボランティアして頂ける方があればJIA事務局(災害担当：高野参与)までお申し出下さい。北陸支部の現地対策本部から10名程度のボランティアを求められています。

(ボランティア申込先)

社団法人日本建築家協会 災害担当 参与 高野孝次郎

申込は以下のメールをお願いします。(ご連絡の方には当方より回答を申し上げます)

eメール mcdk-tdog@u01.gate01.com